

## 平成 26 年度第 1 回江別市上下水道事業運営検討委員会 委員会録

日 時：平成 26 年 7 月 23 日（金）午後 2 時 00 分～午後 3 時 55 分

場 所：水道庁舎 3 階 A会議室

委員出席者：10 名

木村克輝委員長、水野克也副委員長、阿部淳委員、木村秀裕委員、笹山和子委員、  
神保順子委員、古川淳子委員、阿部晃治委員、桑名代江委員、山谷研次委員

事務局出席者：9 名

藤田水道事業管理者、松田部長、中田次長、久保総務課長、多田営業センター長、  
里水道整備課長、廣木浄水場長、安井下水道施設課長、田中浄化センター長

傍 聴 者：1 名

---

### 1. 開会

### 2. 議事

総務課長： ただいまより平成 26 年度第 1 回江別市上下水道事業運営検討委員会を開催させていただきます。本日は、各委員の皆様におかれましては、お忙しいところ委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

委員会に入ります前に、委員の改選がございましたので、ご紹介させていただきます。石狩東部広域水道企業団事務局長の小林様が退職されましたので、その後任といたしまして、同じく石狩東部広域水道企業団事務局長の阿部様に就任していただくことになりました。

ここで、委嘱状を交付させていただきます。

～ 委嘱状交付 ～

総務課長： 就任されました阿部様から、一言ご挨拶いただきたいと思います。

～ 阿部委員挨拶 ～

総務課長： ありがとうございます。よろしく願いいたします。次に、事務局職員につきましても、4 月 1 日付けで人事異動がありましたので紹介いたします。次長の中田です。水道整備課長の里です。下水道施設課長の安井です。浄水場長の廣木です。そして私は、総務課長の久保です。よろしく願いいたします。

それでは、委員会の進行を木村委員長にお願いしたいと存じます。

委員長： （1）平成 25 年度決算の概要について、事務局から説明をお願いします。

総務課長： 水道事業会計決算の概要について、平成 25 年度の収益的収入の合計は 23 億 8,451 万 7 千円、予算と比べて 625 万 4 千円の減となっています。主な要因は、給水収益の減によるもので、支出合計は 21 億 4,463 万円、予算に対して 6,240 万 2 千円の不用額となっています。その主な要因は、維持管理費の減少によるものです。以上の結果、当年度純利益は、2 億 968 万 9 千円となっています。

資本的収入の合計は 3 億 965 万 7 千円で、予算と比べて 1,769 万円の減となっています。その主な要因は、補助事業の工事中止による国庫補助金の減によるものです。資本的支出の合計は 9 億 1,108 万 7 千円で、予算に対して 6,804 万 9 千円の不用額となっています。この結果、収支差引では 6 億 143 万円の収支不足となりますが、内部留保資金などをもって補填

しており、平成 25 年度末の未使用補填財源は 11 億 3,953 万 7 千円となっています。今後においては、給水収益の減少傾向が続く一方で、老朽管の更新や耐震化などの事業に多額の経費が見込まれることから、企業債の借入の抑制や経費縮減に努め、健全経営を維持しながら事業を進めていきたいと考えています。

(2) 業務量について、平成 25 年度末給水人口は 119,897 人で、24 年度と比べて 605 人の減、率にして 0.5%の減少となっています。年度末給水戸数は 48,836 戸で、前年度と比べて 286 戸の増加となっています。年間総給水量は 11,356,533 立方メートルで、前年度より 127,289 立方メートルの減、率にして 1.1%の減少となっています。

(3) 主要事業について、基幹管路耐震化は耐震化計画に基づき、上江別浄水場と大麻低区配水池を結んでいる大麻送水管 1,071 メートルを耐震管に更新しました。配水管整備は、安全で安心できる水道水を供給するために、管網整備で 2,432 メートルを布設し、老朽管と道路改良により 5,804 メートルを布設替えしました。また、配水施設整備では、大麻低区受水流量計などの更新を行いました。以上、水道施設整備事業として 5 億 9,876 万 7 千円を執行しています。

参考として、経営状況について説明します。給水収益と有収水量の推移のグラフで、平成 22 年度は記録的な猛暑により増加していますが、人口減少、節水意識の高まりなどにより給水収益の減少傾向が続いています。主な年度別経営指標については、総収支比率、経常収支比率とも 100%を上回っており、比較的健全な状況にあると考えています。

続きまして、下水道事業会計決算の概要についてご説明いたします。平成 25 年度の収益的収入の合計は 26 億 2,778 万 1 千円、予算と比べて 2,975 万円の減となっています。主な要因は、一般会計負担金の減によるものです。支出合計は 24 億 947 万 6 千円で、予算に対して 7,621 万円の不用額となっています。その主な要因は、減価償却費、その他営業費用の減少によるものです。以上の結果、当年度純利益は 1 億 8,374 万 9 千円となっています。

資本的収入の合計は 14 億 870 万 7 千円で、予算と比べて 2 億 8,451 万 5 千円の減となっています。その要因としては、補助事業の一部を翌年度に繰り越したことによる国庫補助金の減によるものです。資本的支出の合計は 6 億 8,722 万 4 千円で、予算に対して 3 億 237 万円の不用額となっています。このうち、建設改良費につきまして、下段の表の予算の繰越のとおり、翌年度に繰り越していることから不用額が生じています。この結果、収支差引では、12 億 7,851 万 7 千円の収支不足となりますが、内部留保資金などをもって補填しており、平成 25 年度末の未使用補填財源は、10 億 5,278 万 9 千円となっています。今後におきましても快適で衛生的な生活環境のため、施設更新事業を計画的に進めるとともに健全経営を維持していきたいと考えています。

(2) 業務量について、平成 25 年度の処理区域内人口は 117,196 人で、24 年度と比べて 579 人の減、率にして 0.5%の減少となっています。水洗化人口は、116,551 人、年間総汚水処理水量は 15,033,303 立方メートルで、前年度より 306,557 立方メートルの増、率にして 1.7%の増加となっています。

(3) 主要事業について、括弧内の数値は平成 24 年度からの予算繰越分で上記の数値のうち数となっています。雨水管渠整備は、大麻 4 号幹線など 514 メートルを整備し、污水管渠整備では、西野幌地区污水幹線など 1,295 メートルを整備しました。浄化センター整備で

は、機械棟受変電設備更新などを実施し、ポンプ場整備では機械電気設備の更新を行いました。以上、下水道建設事業として14億8,103万6千円を執行しています。

参考として、経営状況についてご説明します。下水道使用料と有収水量の推移のグラフがありますが、少子高齢化などによる人口減少や節水意識の高まりなどにより、減少傾向が続いています。主な年度別経営指標であります。総収支比率、経常収支比率とも100%を上回っており、比較的健全な状況にあると考えています。

委員長： ただいまの決算の概要について、質問等はありませんか。

山谷委員： その他特別収益はどういうものですか。また、平成23、24年度がなく、25年度にまた計上されていますが、どういうことでしょうか。

総務課長： その他特別利益は固定資産の売却収益で、河川の堤防整備等で土地を売却したことによるものです。23、24年度は固定資産の売却はありませんでした。

阿部（晃）委員： 資料（4）給水人口の推移のことですが、少子化で今後人口は減っていくと思いますが、戸数は逆に減らないのではないかと思いますか。

部長： 資料3ページの（2）業務量のとおり人口は減っていますが、核家族化の進行、単身世帯の増加により戸数は増加しています。今後もこの傾向は続くものと考えています。

桑名委員： 5ページの下水道事業の（1）決算総括表の収入の項目で、一般会計負担金とその他営業外収益というのは、どういうものか教えてください。

総務課長： 汚水は下水道使用料で賄い、雨水は公費で負担することが原則となっています。雨水処理にかかる費用を一般会計負担金として収入しています。その他営業外収益の主なものは、預金利息、不用品の売却収益などです。

委員長： 水道事業も下水道事業も有収率が下がっていますが、原因は何ですか。

総務課長： まず、水道事業ですが、はっきりとした原因は分からないのですが、住宅の敷地内での漏水、空き家での凍結による管の破裂等によるもので、減額水量が多かったことです。また、本管から住宅までの給水管の漏水が多くなっているのではないかと考えています。

委員長： 対策は取られていますか。

総務課長： 本管の漏水では、ある程度の特定はできるのですが、給水管の漏水は難しく、判明した時点で修理している状況であります。

委員長： 全国平均の数値を持っていませんが、有収率は低いのではないかと思いますか。

総務課長： 年々下がっていますので、何か対策を考えなければならないと思っています。

委員長： 下水の方が、かなり低いのですが。

浄化センター長： 平成21年度の88.1%から年々下がってきています。有収率が下がってきた原因については、降雨量や汚水処理などが増加したことが原因であると考えています。平成22年度は、過去10年間の平均降雨量873ミリメートルに対し、1,098ミリメートルと雨量が増加しています。同様に平成23年度の1,157ミリメートル、平成25年度の1,043ミリメートルと降雨量が多い状況であります。1,000ミリメートルを超える降雨量が測定されたのは平成12年度から10年ぶりのことで、近年の集中的に大量に雨が降るという状況が見られます。この降雨量が増加したことにより総処理水量が増え、汚水処理水量が増加したものと考えています。それともう一点は、平成22年度に合流式地区の水質改善事業を実施しており、この事業により降雨時の合流式地区の下水をそれまでの約3倍の量を浄化センターに送り、処

理することができるようになりました。その増加分が汚水処理量として増加し、結果として有収率が下がったものと考えています。この有収率については、汚水として処理した水量の内、下水道使用料としていただいた有収水量の占める割合で、この雨による汚水処理量の増加及びこの合流式改善事業により、大量に浄化センターに汚水を送水するものとなったものですから、分母が増えた関係で有収率が下がったものと考えています。

委員長： 先程の質問にもありましたが、雨水は公費なので雨水の量が増えても一般会計からの負担が増えることなので、有収率が変らないのではないかと思います。

浄化センター長： 雨水、汚水の処理水量の算出方法につきまして、降雨の影響がない晴天時の日の処理水量を汚水処理水量の基準とし、それより超えたものを雨水処理水量としています。雨が基本的には影響がないとしていますが、雨の降り方、集中的に大量に降った場合につきましては、数日間地面の中に浸透しており、有収水量とは必ずしもリンクしてこないと思っています。

委員長： 何かあった時に、がくんと下がることはあると思いますが、継続して下がってきているので、その考えの内容で下がっているかどうかというのは疑わしいと思います。

部長： 有収水量の減と汚水処理総水量の増が原因であります。

委員長： 収入とならない水量がたくさんあるということです。1%でも下がると大きな金額になります。ないがしろにしておくのは良くないと思います。

部長： 不明水対策として管渠の調査を実施して、マンホールの改修などを行い、できるだけ污水管には雨水が入らないようにしていきたい。

委員長： 今後、有収率の向上に努めていただきたい。

他にありませんか。なければ、(2)平成26年度予算の概要について、事務局から説明をお願いします。

## (2) 平成26年度予算の概要について

総務課長： 平成26年度予算は、昨年度に検討いただきました江別市水道事業中期経営計画の内容と同一となっており、安心して安定した水道水の供給を続けるための予算編成となっています。まず、収益的収入及び支出ですが、給水収益は21億3,089万5千円を見込んでおり、平成25年度より5,518万3千円の増額となっています。これは消費税増税によるもので、税抜きですと減少しているものです。長期前受金戻入は会計制度見直しにより、補助金等については長期前受金として計上した上で、減価償却見合い分を順次収益化することになったもので1億1,479万5千円、収入合計では、26億3,197万5千円を予定しています。

一方、支出では、職員給与費が3億3,678万5千円、その他支出は、石狩東部広域水道企業団当初計画規模施設分負担金の一括引当金計上等により8億9,918万4千円、支出合計では、32億1,587万6千円を予定しています。この結果、収支差引では、マイナス5億8,390万1千円となり、消費税を整理した純利益はマイナス6億4,486万6千円となる見込みであります。なお、平成27年度以降、平成30年度までは、中期経営計画により純利益を計上できる見通しとなっています。

次に、資本的収入及び支出であります。収入では企業債の借入は行わず、出資金が7,224万7千円、国庫補助金が2,421万円で、収入合計では、1億2,849万3千円を予定していま

す。一方、支出では、建設改良費が 8 億 208 万 1 千円、企業債償還金が 2 億 9,384 万 5 千円で、支出合計では 10 億 9,592 万 6 千円を予定し、この結果、収支差引では 9 億 6,743 万 3 千円の収支不足となりますが、内部留保資金などをもって補填する予定であります。

(2) 業務量であります。給水戸数は 300 戸増の 48,935 戸、年間総給水量は 33,000 立方メートル減の 11,185,000 立方メートル、1 日平均給水量は、90 立方メートル減の 30,644 立方メートル、年間総有収水量は、31,081 立方メートル減の 10,491,153 立方メートルで、有収率は前年度と同じく 93.8%を予定しています。

次に、(3) 主要事業について基幹管路耐震化事業は、耐震化計画に基づき、大麻送水管 1,097 メートルを耐震管に更新します。水道水の安定供給を確保するための配水管整備事業は、配水管の新設及び老朽管の更新を延長 8,420 メートル、道路改良に伴う布設替えて延長 3,140 メートルを予定し、配水施設整備事業では、大麻高区配水池テレメータ設備更新などで 6,207 万 4 千円、浄水施設整備事業では、ろ過池ストレーナ更新で 4,766 万円、総事業費では事務費等を含め、7 億 7,825 万 7 千円を予定しています。

続きまして、下水道事業会計予算の概要についてご説明します。下水道事業会計につきましても平成 26 年度予算は、昨年度に検討いただいた江別市下水道事業中期経営計画の内容と同一となっており、良好な環境、安全な暮らしを実現するための予算編成となっています。

まず、収益的収入及び支出ですが、収入では、下水道使用料は 13 億 7,355 万 7 千円を見込んでおり、収入合計では 37 億 2,413 万 4 千円を予定しています。一方、支出では、職員給与費が 1 億 5,298 万 5 千円、委託料が 2 億 4,838 万円で、支出合計では 35 億 1,123 万 8 千円を予定しています。この結果、収支差引では、2 億 1,289 万 6 千円となり、消費税を整理した純利益は 1 億 7,344 万 9 千円となる見込みであります。

次に、資本的収入及び支出の収入ですが、企業債が 4 億 4,050 万円、会計制度見直しにより、一般会計補助金・一般会計負担金を出資金とし、その出資金が 2 億 4,523 万 3 千円で、収入合計では 14 億 1,907 万 7 千円を予定しています。一方、支出では、建設改良費が 12 億 7,250 万円、企業債償還金が 11 億 5,102 万 6 千円、支出合計で 24 億 2,652 万 6 千円を予定し、この結果、収支差引では、10 億 744 万 9 千円の収支不足となりますが、内部留保資金などをもって補填する予定であります。

(2) 業務量であります。処理区域内人口は、前年度より 119 人減の 117,118 人、水洗便所設置済人口は 101 人減の 116,433 人、水洗化率は 99.4%で変更はなく、年間汚水処理水量のうち、下水道使用量は 14,302 立方メートル増の 10,828,585 立方メートルを予定しています。

次に、(3) 主要事業についてですが、雨水管路整備では、浸水対策として大麻地区の幹線整備で延長 391 メートルを予定し、事業費は、単独事業を含めて 2 億 5,284 万 5 千円、汚水管路整備では、野幌駅周辺土地区画整理事業などで延長 665 メートルを予定し、事業費は 2 億 7,008 万 2 千円、管路施設改築更新では、テレビカメラによる長寿命化計画調査と管更生で延長 661 メートルを予定し、事業費は 1 億 6,625 万 6 千円、処理場・ポンプ場施設改築更新では、汚泥処理設備更新で 4 億 7,800 万円、処理場・ポンプ場施設耐震化では、耐震調査で 3,500 万円、総事業費は事務費等を含めて 12 億 6,201 万 7 千円を予定しています。以上が平成 26 年度予算の概要であります。

続いて、石狩東部広域水道企業団の受水料金についてご報告します。平成 27 年度から供給が開始される千歳川水系と現在供給を受けている漁川水系の料金単価について、8 月に開催予定の石狩東部広域水道企業団議会で決定されることになりました。千歳川水系の料金について、基本料金は 1 立方メートル当たり 126 円、使用料金が 25 円です。漁川水系については、基本料金は現在 1 立方メートル当たり 63 円から 69 円に、使用料金が 5 円から 7 円に改定となる予定です。この改定による本市水道事業への影響は、年間で約 4,700 万円でありますが、現行料金のもとで、運営できる見込みであります。

委員長： ただいまの平成 26 年度予算の概要について、質問等はありませんか。

古川委員： 先程の決算の概要でありました平成 25 年度の予算額と平成 26 年度予算の概要に載っている平成 25 年度の予算額の金額が違っていますが、この違いは何ですか。

総務課長： 決算の概要の予算は最終予算で、予算の概要の方は、当初予算となっています。

古川委員： 水道事業予算の概要では予算、下水道事業予算の概要は予定額となっていますが、違いの説明をお願いします。

総務課長： 同じでありまして、予算とするものでした。

阿部（淳）委員： 水道事業の主要事業の中で、耐震化事業も含められていると思いますが、耐震化率の進捗状況はどうなっていますか。水道と下水道の有収率の考え方が若干違う印象がありますが、水道は供給した水道の料金のことで、下水道は雨水をどうとらえるかということなので、そこの対策が必要と思います。今年の事業で下水道の有収率向上に向けてどんな取り組みがあるのか、今後の予定でもかまわないので教えていただきたい。

水道整備課長： 耐震化については、他市と比較して低い状況で 9%となっています。平成 30 年度で 16%まで伸ばしていきたいと考えています。

阿部（淳）委員： 全道では、どれくらいですか。

水道整備課長： 20 から 30%だと思います。

下水道施設課長： 江別市下水道ビジョンの 53 ページをご覧ください。汚水処理水量の増加原因は、雨水が入って有収率が低下するため、平成 24 年から市内で一番古い下水道施設であります大麻団地から下水道管の破損、進入水などの調査をしています。その調査により、対処方法は大きく分けて 2 つあります。管そのものを入れ替える布設替えと管の内側に樹脂製の管をもう一つ造る管更生というものです。平成 26 年度予算では、大麻地区において延長 500 メートルを管更生する予定です。今後も現状を調査しながら実施していきます。

委員長： 今年の有収率について、有収率が下がってきているのに、平成 25 年度と同じ率はどうかと思います。

総務課長： 本管につきましては、老朽管更新計画に基づいて布設替工事を実施していきます。給水管については、漏水を発見したところから修理しています。過去の平均から見ての考えであります。

委員長： 下がっているのは明らかです。現状維持ではなくて、回復することになりますが大丈夫ですか。

管理者： 安定的な経営から見れば、収入関係は少し厳しく見なければならぬと考えます。今年度は 2 年くらい前の実績を踏まえて対応しましたが、この傾向が続くようであれば、少し慎重な見方をしなければならぬと考えています。すぐに何らかの具体的な手当てをすることは

難しい面もありますが、委員長のご意見は参考にさせていただきます。

委員長： 水道の給水量の見込みは下がっていますが、下水の処理量は上がっています。これは先程の雨水の浸透のことを考えてのことですか。

総務課長： 降雨量が多くなっているので増加しています。下水管の調査を実施して、破損しているところは管更生を実施していきませんが、すぐに市内全部の管を実施することはできません。徐々に雨水の浸入はなくなると考えています。

委員長： 他にありませんか。なければ、(3) 水道料金等収納業務委託について、事務局から説明をお願いします。

### (3) 水道料金等収納業務委託について

営業センター長： 資料 3 をご覧いただけます。これまでの経緯についてですが、水道料金等収納業務委託は、江別市水道事業及び下水道事業中期経営計画に盛り込まれており、経営基盤の強化の取り組みの一つとして、水道料金の計算や収納業務委託について積極的に検討するものとされています。このほど関係団体との調整もつき、構想が具体化したことから本委員会にご報告をさせていただくものです。

次に、民間委託の目的ですが、経営の効率化を基本として、①お客さまサービスの向上、②収納率の向上、③専門性の高い民間ノウハウの導入、④地域雇用の創出、⑤コストの削減などを目的とするものです。

次に、具体的な業務内容についてですが、現在、営業センターが行っている①から⑫までの業務を対象とするものであります。

次に業者の選定方法についてですが、その基準として、単なる価格面での選定ではなく、業務の質を重視した選定が適切であるとの観点から、公募型プロポーザル方式にしました。

次に選定過程についてですが、設置要綱に基づき、業者選定プロポーザルに係る提案書類の評価及び委託業者の選定を行う選定委員会を設置して選定を行います。選定委員の構成は、水道事業に関する専門性を重視する観点から、水道部内からは委員長となる水道部長、以下次長と課長職 3 名、部外の識者 3 名による総勢 8 名としています。委員の審査についてですが、各応募事業者からのプレゼンテーションに出席していただき、選定基準に基づく審査を A から F の 5 段階で評価し、最後に受託候補者を決定するものです。

最後に今後の予定についてですが、ホームページによる募集を 9 月上旬に、応募事業者からの提案書の受付を 10 月中旬に行い、書類審査を経て 11 月中旬にはプロポーザルを実施し、受託候補者を選定する予定です。その後 12 月中旬に契約を締結して、年明けの 1 月から 3 月までを事務の引き継ぎ期間として、円滑な業務引継ぎに努めていきたいと考えています。

委員長： ただいまの水道料金等収納業務委託について、質問等はありませんか。

阿部（淳）委員： 参考までに契約期間はどれくらいですか。

営業センター長： 他市の状況を見まして、5 年間を契約期間としています。

委員長： コスト削減の見込みはどれだけですか。

営業センター長： 営業センター職員の削減と委託料の比較になるかと思いますが、段階的にコスト削減となっていく予定で、最終的に年間約 1,400 万円の削減を見込んでいます。

委員長： 今、収納率はどれくらいですか。

営業センター長： 98%です。

委員長： それをどれくらいまで上げられると考えていますか。

営業センター長： 現状か、それ以上を求めたいと思っています。

委員長： 目標としているところはありますか。どれくらいまで上げるとか。

営業センター長： 数値的なものまでは考えていません。今までの水準か前年なり過去3カ年の状況を上回ることを考えています。

阿部（晃）委員： サービスの向上とは、どういうものですか。本当の目的は、経費削減ではないかと思いますが。

営業センター長： 基本的には経費削減ですが、お客さまサービスとしては、民間企業では全国的な展開をしており、他市町村での豊富な経験を当市の業務に生かしていただければ、サービスの向上につながると考えています。

阿部（晃）委員： 地域雇用の創出というのは、水道部職員は減りますが、民間で働く人が増えるということですか。

営業センター長： 民間受託者が地元の方を採用するというので、地域雇用の創出、地域貢献と考えています。

部長： お客さまサービスの内容ですが、電子式メータを促進して、現在の4か月検針から2か月検針への移行を考えています。民間の実力も上がってきていますので、委託する中でお客さまサービスに繋がるようなものを進めていきたいと考えています。

桑名委員： 検針業務のことで、市内で電子式メータを設置していないか確認です。

営業センター長： 江別市のメータは地下式ですが、新築、全改築の場合は電子式メータを設置しています。平成27年度からは、メータの更新にあわせて地下式から表示部を壁等に設置する電子式メータへ移行していく予定です。

部長： 表示部を見に行かなくても検針できる無線メータも導入していきます。

木村委員： 質問ではないですけど、指定金融機関として民間委託も含めながら、お客さまサービスの向上など、どのようなことでも協力します。

笹山委員： 委託契約関連に関して何か不都合があったりした場合は、選定委員の中で対応していくということになりますか。

部長： 選定委員は委託業者を選定するための委員で、契約後は水道部職員が業務をチェックしていきます。

管理者： 業者選定において、内部的なモニタリング制度をどうするのか。それが業者選定の基礎になりますので、一連のチェックをして、実際契約した以降については、水道部職員が市民の皆さんからのモニタリングにより、業者の運営を確認させていただくこととしています。

委員長： 業者選定後に、この委員会に報告があると思います。その他にありませんか。なければ、  
(4) 江別市水道ビジョンの改訂について、事務局から説明をお願いします。

#### (4) 江別市水道ビジョンの改訂について

水道整備課長： はじめに、現在の江別市水道ビジョン策定の経緯についてですが、水道ビジョンについては、まず厚生労働省が平成16年に国全体としての水道ビジョンが取りまとめられました。その後、平成17年には、その水道ビジョン実現のため、各水道事業者においても自ら

の事業の現状と将来見通しを分析・評価した上で、目指すべき将来像を描き、その実現のための方策を示すものとして、地域水道ビジョンを作成するよう厚生労働省から通知がありました。これらの背景などから、江別市におきましても、自らの施設、経営、サービス、災害対応などについての現状を的確に把握するとともに課題を抽出し、それを如何にして解消していけば良いかという視点で、基本方針・基本目標を立て、さらに、それらを現実のものとするべく、具体的な解決方法となる基本施策をまとめ、江別市水道ビジョンとして平成 21 年に策定・公表いたしました。江別市水道ビジョンの計画期間は平成 21 年度から平成 30 年度までの 10 年間で、これまで基本施策に係る事業を中期経営計画や年度毎の事業計画に反映させて、着実に実施してきました。

一方、この計画期間における前期 5 年間には、東日本大震災の発生など今後の水道事業を検討していく上で大きな影響を及ぼす事象が起り、これからの水道事業は、耐震化を含めた水道施設の危機管理対策、安全安心な水質の保持などが必要不可欠であることが再認識されたところです。江別市水道ビジョン策定から約 5 年が経過し、計画期間の中間年度を迎えたことから、これまでの各基本施策の進捗状況を確認するとともに、各数値データを最新のものに更新し、現在の水道事業を取り巻く環境を踏まえ、後期 5 年間に向け基本施策を再確認するため、改訂を行うこととしました。今回は、中間年度としての見直しであるため、変更内容は必要最小限とし、構成、基本理念、基本方針、基本目標、基本施策の大幅な変更は行わず、これまでに解消された課題や具体的な取組みにおける実績などについて記載することを中心に改訂することとしました。また、今後もこのビジョンに基づき、引き続き各事業を推進していくにあたり、明確化しておくべき重要な課題につきましては、より充実させて記載しました。

次に、主な改訂点についてご説明いたします。59 ページ、60 ページをお開きください。このページの江別市水道ビジョン体系図を基に、今回改訂した主な内容についてご説明いたします。ビジョンの体系は、図の一番上の黄色い部分のとおり、左から現状の内容・分析、課題の抽出、基本理念、基本方針、基本目標、基本施策、目標設定の 7 項目の構成となっています。現状と課題の詳細については、17 ページから 42 ページの第 5 章に記載していますが、まず改訂した点の一つとして、59 ページの体系図の課題の抽出の未給水区域の解消（西野幌地区の一部）という項目がありますが、これについては、平成 25 年度の西野幌ポンプ場の運転開始により完了しましたので、項目の横に完了と記載しています。また、これについての具体的な対応などについては、18 ページ及び 47 ページに記載し、同様に平成 25 年度完了と記載しています。

続きまして、同じく 59 ページの体系図の課題の抽出の列の緑色の囲いの電子式メータの推進と水道メータ検針間隔の短縮という項目を新規として記載しました。これらについては、改訂前のビジョンにも電子式メータの設置拡大などについて記載し、計画的に推進・検討してきたところですが、今後も、より一層重点的に行っていくべき事項であると考え、課題として新たに記載することで明確化しました。なお、具体的には 29 ページ、31 ページ及び 51 ページに記載しています。また、同様に新規として、59 ページの体系図の課題の抽出の列の赤色の囲いの水道料金計算、収納業務などの民間委託化という項目を課題として新たに記載しました。業務の民間委託につきましては、既に浄水場の運転管理業務や水道メータ取替修

繕業務において実施していますが、水道サービスを将来にわたって持続していくためには、官民連携により知識や技術力を確保しておくことが必要であるため、後期の重点事項と考え記載することで明確化しました。その他の課題項目につきましては、59 ページの体系図の課題の抽出の各項目の横に継続と記載しておりますとおり、引き続きその解消に向けて、それぞれの基本施策などに基づき、様々な事業を実施していきたいと考えています。

なお、基本施策に基づく具体的取組みの状況につきましても、改訂版に記載しています。

最後に、60 ページの体系図の目標設定という項目についてご説明いたします。この指標値が各施策の進捗状況の目安となるものですが、改訂前のビジョンでは、平成 20 年度末の実績数値を記載していましたが、それを平成 24 年度末における実績数値に更新しました。その際、一部項目につきましては、既に当初設定した平成 30 年度の目標値を達成しているものもあることから、現状を踏まえ目標値の一部見直しを行っています。なお、49 ページの緑色の目標設定の表では、その進捗状況が確認できるよう平成 20 年度末の実績数値を残し、その横に平成 24 年度末の実績数値を追記いたしました。主な改訂のポイントは以上のとおりです。今後もこの江別市水道ビジョン改訂版を基本として、目標に向け、各事業に取組み、着実に実現していくことで、安全で安心できる水道水の安定供給を継続していきたいと考えています。なお、厚生労働省では、水道を取り巻く環境の大きな変化に対応するため、平成 25 年に全面的に見直しを行い、新水道ビジョンとして策定・公表しています。江別市水道事業におきましても、国の新水道ビジョンの基本理念などを踏まえつつ、江別市の状況、特性、お客さまニーズなどを考慮し、良質な水道サービスの提供と効率的な事業運営を将来にわたって持続するための方策などを継続的に検討していき、平成 30 年度までに次の期間の指針となる次期江別市水道ビジョンを取りまとめたいと考えています。

委員長： ただいまの水道ビジョンの改訂について、質問等はありませんか。

阿部（晃）委員：日本創生会議によりますと、2010 年から 2040 年で江別市の若年女性が 52.8%減少すると言われていています。試算というのは難しいが、どの係数をとるかによって変わってきます。いずれにしても厳しい時代が来るという予測した 5 カ年計画であってもいいのではないかと思います。人口減少の中で維持管理費がものすごく将来的に負担になります。このビジョンの中にもすでに水道料金の検討とあり、値上げの話になると思います。ビジョンですから短い期間ではなく、長期の 20 年から 30 年の人口動態を考えた中での 5 カ年計画であってしかなるべきだと思います。たとえば、耐震化を進めるとか、管の総延長とか記載されていますが、これは高度経済成長を背景にして増えてきたものです。ところが人口は減る時代が来るということを前提とすれば、水道の施設を増やすのではなく、将来を見据えた選択もあるのではないかと思います。耐震化では、市のビジョンがないから分かりませんが、人口が減る中で水道管を増やしている。江別の地域の中でも人が少なくなってくる地域があると思いますが、そういうところまで水道管を維持していかないとならないのか。思い切ってそういう所の人を別の場所に移ってもらうようなビジョンがあるなら、そういう所の耐震化をしないとか、もう少し取捨選択した中で行わないと水道料金が上がってしまいます。

管理者： もっともな問題意識を持っていただき非常にありがたいのですが、ビジョンの中には、委員さんが言われたことは入れていません。それについては、別途江別市全体として各自治体も同様ですが、今後のまちづくりにおける人口減対策における今後のビジョンを作成しな

ければならないと考えます。一つ具体的な動きとして、江別市全体のインフラ整備である公共施設関係の総合管理計画を作ろうとしています。これは水道、下水道のみならず、道路とか橋梁、保育園、図書館、体育館などの公共施設の今後の在り方をどうするのか、当然土地利用全体と繋がってきます。人口分布がどう変わっていくかによって、各施設の集約化の問題、複合化など色々な議論がされることとなります。それはもう少し時間をかけ、市民の皆さんと議論しながら作成することとなります。上下水道の施設関係だけで言えば、平成 50 年度くらいに上江別浄水場の建て替えの時期がきます。その時本当に江別市として造るべきかどうか、場合によっては石狩東部広域水道企業団からの供給量を増やすような方法で乗りきることができないか、札幌市との連携の中で水を供給してもらえないかなど、内部的に検討しているところです。いずれにせよ今後 1 つの問題として、人口減少というのは避けて通れないことですから、広域化を視野にいれないとなりません。それと合わせて、各公共施設関係の長寿命化の問題もありますし、管渠のあり方についても従来どおりで良いかなど検討しなければなりません。水道管を増やしているのではなく、老朽管の更新に合わせて耐震化を行っています。水道の提供の仕方についても管を伸ばすことが良いのか、場合によっては拠点に水を出すような施設を設置する方法が良いのか、色々な議論を内部では行っています。人口減少は、はっきりしていますので、どういうビジョンを作るかということが差別化の一つのポイントになり、江別市は他と違って、こういう特徴があって、こういう住みやすい街になりましたと言えるようなビジョンを作りたいと考えています。ただもう少しお時間をいただきたいという状況です。

神保委員： 49 ページに可搬ポリタンク・ポリパック保有度とありますが、平成 24 年度の数値と平成 30 年度の目標値も 94.7 となっています。具体的にどれくらいの量がストックされているのか、また何リットル用の袋なのか知りたい。

水道整備課長： ポリタンクとポリパックがありますが、今はポリパックを充実させようとしています。当初目標としていたポリパックの枚数は 10,000 枚です。平成 30 年度までに 10,000 枚を揃えようとしていましたが、平成 24 年度までに目標を達成しました。早めに達成しましたので、これからは使ったら補充することとして、目標値は維持としています。

神保委員： ポリパックは何リットル用ですか。

水道整備課長： 5 リットル、10 リットルなどがあります。

神保委員： (個/1000 人) とはどのようなことですか。

水道整備課長： 1 人 1 個ではなく、1,000 人に対して 94.7 個を用意することです。

管理者： 実際大きさは、色々あります。ただ、高齢者の方が持てるというのは 5 リットルから 10 リットルで多い量は持てないです。単純に言えば 5 リットル掛ける 94.7/1000 掛ける人口となります。

神保委員： 周辺の自治体は、災害時の応援用ポリパックを持っているのですか。

下水道施設課長： 札幌市も同じように持っています。10 リットル用となると 1 人で持っていくのは大変です。それで、5 リットル用も用意しています。それは江別市だけでなく、全国の水道事業体でそれぞれ用意して、緊急時にはポリパックをお渡しして給水します。ただ、これに頼るだけではなく、皆さん自身も水の備蓄をお願いしたいと思います。

神保委員： 自治会とかに周知をお願いしたい。

下水道施設課長：自治会等と訓練を行っていますので、そのような時に話をさせていただきます。

水道整備課長：25ページの災害対応で緊急貯水槽を市内5箇所に設置しており、1箇所につき50立方メートルの水が災害時に蓄えられます。毎年自治会の皆様と一緒に訓練を行っています。そのことにつきましては48ページの写真のとおり応急給水の訓練を実施しています。ポリパックを使って、実際に水を入れて訓練を実施しています。

部長：50立方メートルの容量というのは、生活用水では足りませんが、1人1日3リットルの計算で約5,500人に3日間供給できるというものです。

委員長：冊子で各戸に配布しているわけではないし、パブリックコメントでも反応は無かったとのこと。これは見ていないのではないかと思います、いかがでしょうか。

部長：パブリックコメントを見ていただいて意見がないのか、見ていないのか分からないのですが、確かにPR不足があるかと思しますので、今年から自治会などに上下水道のことについて知っていただくため、活動を始めています。

委員長：概要版を作って各戸に配布するとか、何かないと興味を持っていただけないと思います。

管理者：一番の問題というのは、水道、下水道はあって当たり前の印象があります。それを維持、確保するためには、かなり大きな労力が必要です。都市の環境維持のために重要ですから、資料的に確かにダイジェスト版を作って、皆さんに分かりやすく伝える工夫をしなければならないと考えます。第一段階として自治会からPRを始めましたが、徐々にPTA、各種団体等に広報活動を行い、行政だけでなく市民の皆さんも一定の役割を担ってくださいますことを含めて取り組みを始めています。それをもっと強化したいと考えていますので、概要版の作成については考えていきたいと思います。

委員長：他にありませんか。なければ、(5)江別市下水道ビジョンの改訂について、事務局から説明をお願いします。

#### (5) 江別市下水道ビジョンの改訂について

下水道施設課長：現在の江別市下水道ビジョンについてですが、国土交通省から平成17年9月に持続可能な循環型社会を構築するため、従来の「普及拡大」中心の下水道から健全な水循環と資源循環を創出する21世紀型下水道への転換をめざして「下水道ビジョン2100」が公表され、その後平成19年6月に概ね今後10年間の下水道中期ビジョンとして公表されました。

その後、これからの北海道地方の下水道事業のあり方などを地方から考え発信する「北海道地方下水道ビジョン」が策定されました。これらを受けて、江別市として平成22年度から平成30年度の概ね10年間を対象とした「未来へつなぐ下水道」、「暮らしをまもる下水道」、「環境に配慮した下水道」、「ともに進める下水道」の4つの基本方針を定めた江別市下水道ビジョンを平成23年3月に策定しました。ビジョン策定から約4年が経過し、その間、東日本大震災の発生により、改めて耐震化を含めた危機管理対策の重要性が浮き彫りとなりました。また、気象変動の影響に伴い、近年多発する局地的豪雨による浸水被害への対応も大きな課題となっています。今回、対象期間の中間年度を迎え、これまでの重点施策の進捗状況を確認するとともに各数値を最新のものに更新し、現在の下水道事業を取り巻く環境を踏まえ後期5年間に向け改訂を行いました。なお、今回の改訂は中間年の見直しであるため、ビジョンの構成、基本理念、取組方針、重点施策、目標値の変更は行わず、これまでに達成

した課題や取組みにおける実績を記載するとともに、中期経営計画の主要施策に関わる取り組みに浸水被害の防除を新たに追加したもので、基本的には継続する項目がほとんどであります。

江別市下水道ビジョンの 63 ページ、64 ページの施策体系図を基本に、今回改定した内容をご説明いたします。最上段の見出し項目ですが、横方向に現状、課題、基本理念、取組方針、重点的施策、具体取組み、そして目標値の順に 7 つの項目で構成されています。同じく体系図の現状及び課題では、下水道資産、汚水処理、下水道経営、お客様サービス、地震対策、浸水対策、水環境、合流式下水道、そして下水道資源の利活用の 9 つの項目に分類しており、それぞれの項目毎に下水道事業の現状を整理し、課題を抽出しています。現状及び課題の内容につきましては、第 3 章下水道事業の現状と課題に記載されています。課題の項目の内、今回の改訂では合流式下水道の改善対策が平成 22 年度に完了しましたので、体系図の下から 2 番目の平成 25 年度までの改善対策については、実績を完了としています。具体的な改善対策内容については、第 3 章の 39 ページから 40 ページに記載しています。

次に 64 ページの重点的施策の上から 2 番目の下水道施設の適正な維持・管理の具体的取組みにおける改訂内容について、ご説明いたします。膨大な下水道施設情報を一元管理し、計画的かつ効率的に将来にわたって適切に維持管理・改築・更新・修繕を実施するため、平成 23 年度に処理場・ポンプ場施設設備管理システム、平成 24 年度には、管路情報管理システムを構築しましたので、データベースシステムを活用した維持管理データの蓄積については実績を完了としました。

次に同じく 64 ページの重点的施策の上から 4 番目の合流式下水道の改善では、合流式下水道の改善対策が完了いたしましたので、実績を完了としております。今後、対策完了後の効果検証として合流式下水道改善事業事後評価を今年度に予定しています。

次に同じく 64 ページの上から 5 番目の災害に強い下水道では、近年、集中豪雨が増加する傾向にあるため、浸水被害を軽減・防除する対策を進めることを浸水被害の防除として、新たに項目を追加しています。

その他の具体的取組みにつきましては、ほとんどが継続事項となっており、後期 5 年間も引き続き取り組んでいきます。

次に同じく 64 ページの重点的施策の達成度を確認するために、その右側に目標値を設定しておりますが、今回の改訂にあたり、現状値として、新たに平成 24 年度の数値を記載し、最終年度の平成 30 年度と比較できるようにしました。なお、現行ビジョン策定時に記載していた平成 21 年度実績値は、平成 24 年度実績値、平成 30 年度目標値と並べて、第 5 章内の表に記載しております。以上が、今回の主な改訂箇所であります。

最後になりますが、今後とも江別市下水道ビジョン改訂版を基本として目標達成に向け、各事業の推進に取り組むことで、下水道が水循環系のなかで、これまで以上の役割を担い、快適で安全・安心な暮らしの実現、続可能な社会の構築に向けて、努力していきたいと考えています。なお、国土交通省では、国内外の社会経済情勢の変化を踏まえ、今年の 7 月に新下水道ビジョンが策定される予定です。江別市の下水道事業におきましても、国の新下水道ビジョンの考え方を踏まえつつ、江別市の状況を考慮し盛込んだ次期江別市下水道ビジョンを平成 30 年度までに策定し、公表する予定であります。

委員長： ただいまの下水道ビジョンの改訂について、質問等はありませんか。

阿部（晃）委員： 流雪溝の利用頻度の向上のところで、高齢化で利用が減ったとありましたが、この流雪溝というのは江別地区のみで他はないのですか。

下水道施設課長： ありません。

阿部（晃）委員： 最近の大雪で自治会では困っています。業者から自治会排雪費を値上げしてほしいと言われていました。流雪溝があれば緩和されるので、増やすことはできないですか。

下水道施設課長： 流雪溝は何の水で流すのかというのがポイントになります。旭川市は川の水を引いていますが、河川というのは、そう簡単に水を引くことができません。地下水というのは不安定と同時に地域性があります。江別市では、何とか使う水がないだろうかと考えたのが、浄化センターの処理水で、平成2年から使用しています。処理水の量の問題、循環した時に当然温度が下がり、それをまた最終的に処理することになります。また、金額の問題もあります。そう考えると、残念ながら江別市内でこれ以上増やすことは厳しい状況です。

阿部（晃）委員： 合流式下水のことですが、改善とか更新に予算をかけるより、長期で見たときに汚水管路、雨水管路に分ける方が良いのではないかと考えます。それからもう一つ、江別市の主要な水源は千歳川で、その流域にはたくさんの町があります。牛を飼っている農家もありますし、上流の恵庭市などの下水道対策はしっかりしているのか、水を飲む立場から心配です。確かに浄化しているし、安全な水を作っていると思いますが、安心して水が飲める視点からいくと、千歳川流域の市町村で毎年委員会など開いていただき、千歳川を守ろうとか水質を守ろうとか、そういうものを開催できないでしょうか。或いは、江別市で農家の牛糞とか、垂れ流しをしていなかなど、そういうチェック体制があるのか、なければ作ってほしい。安心して水が飲めることになります。

下水道施設課長： 二つ目の千歳川につきましては、千歳川に関する連絡協議会というのがあり、保健所、江別市生活環境部環境課が中心となり、環境保全の観点から水質の監視、検査を行っています。合流改善の目的は雨が降った時に雨水が多くなって、一緒になっている汚水を含めて越流して河川に流れてしまいますので、それをいかに少なくするかということです。千歳川周辺では合流式改善事業を実施しており、放流水の水質は良くなっています。当市の浄水場では、原水の水質試験をしていますし、安全な水道水とするために高度浄水処理をしていますので、水質に関しては何の問題もありません。

一点目の分流式、合流式のことですが、合流式下水道というのは、最初のころに始まった下水道です。札幌市は60パーセント以上が合流式で、中心部は全部合流式です。合流式の利点は、一本の管で汚水と雨水が処理できることが非常に合理的なことで、なにも合流式が全て悪いということではありません。ただ、処理をするということを経験したときには分流式にして汚水と雨水に分けた方が、きっちり処理できます。江別市の場合は、昭和39年に大麻団地に下水道が入り、その次に江別駅前地区に入りました。その時は、まだ処理場も完全に整備されてなく、合流式を採用しました。今が合流式であっても分流式と同じように処理場で処理しています。処理ということに関しては同じであります。違うのは、雨が降ってきた時に、その雨の量が多くなるとその違いがありますが、放流水の改善ということで合流改善を実施してきました。そういう状況の中で、さらに合流管を汚水管、雨水管に分けるとなると数百億円かかりますので、設備を変えるということは考えていません。

委員長： ビジョンの中身が市民に行き渡ると色々なことがでてくると思います。それを現実的にやれるかどうか予算のこともありますが、ただ、市民の側とすれば、選択肢の中に料金を払ってもいいから、これをやってほしいとか、そういうものがでてくるのも面白いと思います。そういう雰囲気を盛り上げるためにも、せっかく作ったビジョンを広く行き渡るようなことができれば良いかなと思います。

管理者： 私たちの方で行おうとしている一番大きな目的は、今後各自治体がどんな行政課題に直面するかということをご皆さんに知ってもらうことです。その中で、役割分担なり、選択肢など色々な考え方を出していきたいと思っています。その第1段階として、先程もお話したように説明会を始めています。その際の有力な一つのツールとして、もっと分かりやすいようなものが需要だと思いますので、工夫していきたいと思います。

委員長： 他にありませんか。なければ、(6) その他で事務局からお願いします。

#### (6) その他

総務課長： 次回の委員会は、12月18日(木)の予定です。内容は、合流改善事業事後評価について、ご意見をいただきたいと考えています。決定次第ご案内しますので、よろしく願いいたします。

委員長： 全体を通して何か質問、意見等はありませんか。

笹山委員： 汚水を微生物によって綺麗にして石狩川に流していることや江別の水道水は安全で美味しいということをもっとPRする方法を検討していただきたい。

委員長： 本日予定しておりました議事については、全て終了しましたので、これで委員会を終了いたします。ありがとうございました。

15 : 55 終了